第６次高松市子ども読書活動推進計画

令 和 ６ 年 ３ 月

高松市教育委員会

目　次

第１章 計画策定にあたって……1

1 計画策定の目的……1

2 計画の期間……2

3 計画の進行管理……2

4 計画の対象……2

5 計画の位置づけ……2

第２章 第５次計画期間における取組と課題……3

1 第５次計画について……3

2 第５次計画期間における方策と課題……3

（１）家庭・地域における読書活動……3

（２）学校等における読書活動……7

3 第５次計画の総括と今後の方向性……9

第３章 第６次計画の基本目標と方針……10

1 基本目標……10

2 基本方針……11

3 施策体系……13

第４章 第６次計画の施策……14

1 家庭に対する取組……14

2 図書館における取組……15

（１）市立図書館施設を活用した取組……15

（２）資料の充実……16

（３）すべての子どもが図書館を利用するための取組……18

（４）司書の充実……19

（５）学校やコミュニティセンター等との連携……19

3 学校等における取組……20

（１）保育所（園）やこども園、幼稚園における取組……20

（２）学校における取組……20

（３）学校図書館の整備・充実……21

4 地域に対する取組……23

（１）民間団体等に対する支援……23

（２）子どもの読書活動の関係各課における連携・協力……23

○用語説明……24

○高松市子どもの読書に関するアンケート調査結果……25

第１章 計画策定にあたって

１　計画策定の目的

子どもにとって読書は、創造力を豊かにし、感性を磨き、表現力を高め、生きる力を育むうえで大きな力を持っています。

また、読書は、新しい発見や感動、ものの見方や考え方など、今まで知らなかった新しい世界を知る喜びをもたらします。

平成１３（２００１）年１２月に、子どもの読書活動に関する基本理念を定めた「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行され、令和５（２０２３）年３月には、国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」（第５次計画）、が策定され、香川県においても、令和３（２０２１）年１０月に第４期「香川県教育基本計画」が策定されています。

本市においても、令和２年（２０２０）３月に「第５次高松市子ども読書活動推進計画」（以下、「第５次計画」という。）を策定し、家庭、地域、学校が一体となった取組を進めてきました。

近年においては、学校図書館法改正による学校司書法制化や言語活動の充実を図る学習指導要領の改訂により「読むこと」を含む国語力の育成が図られる一方、ＩＣＴ[※1]の変革によるデジタル機器の普及や情報通信手段の多様化等、子どもの読書活動を取り巻く状況は大きく変化しています。

また、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）の施行により、すべての子どもの読書環境の整備が求められています。

こうした子どもの読書に関する状況を踏まえ、多様な考え方や生き方に触れられる読書の役割は非常に重要であると言えます。

本市の子ども読書活動における目標を明確にし、社会の変化に対応しながら、将来を見据えて計画的に推進するため、「第６次高松市子ども読書活動推進計画」（以下、「第６次計画」という。）を策定しました。

２　計画の期間

本計画の期間は、令和６（２０２４）年度から令和１０（２０２8）年度までの５年間とします。

３　計画の進行管理

毎年、各施策や数値目標等の実績を把握し、国や県の動向も踏まえながら、計画の分析・評価を行い、また、必要に応じて、計画の変更や施策の見直しを行っていきます。

４　計画の対象

本計画の対象は子どもと子どもの読書に関わる保護者等とします。なお、本計画における「子ども」とは、おおむね１８歳以下の者をいいます。

５　計画の位置づけ

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第９条第２項に規定する、市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画として位置づけられ、「香川県教育基本計画」中、子ども読書活動に関する部分を基本として策定するものです。

また、本市の市政運営の基本方針である「第７次高松市総合計画」を具現化する分野別計画の１つです。

第２章 第５次計画期間における取組と課題

１　第５次計画について

令和２（２０２０）年３月に策定した第５次計画では、以下の基本的な考え方に基づき、家庭や地域、学校において、読書活動の推進に取り組みました。

また、図書館や学校、民間団体等の連携・協力、市立図書館や学校図書館の整備・充実にも取り組みました。

基本的な考え方

生涯にわたる読書習慣を身に付けるために、

① 乳幼児期からの本との出会いを大切なものと考えます。

② 発達段階に応じた取組で読書習慣の定着を図ります。

③ 読書離れが懸念されるヤングアダルト[※2]世代の読書への関心を高めます。

２　第５次計画期間における方策と課題

(1)　家庭・地域における読書活動

ア　乳幼児への取組

市立図書館では、関係課との連携の下、ブックスタート事業[※3]を継続して実施するとともに、子どもの成長に応じた絵本情報を提供するなど、より多くの乳幼児が読み聞かせの楽しさを知るきっかけづくりを行い、家庭での読み聞かせの推進を図りました。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、ブックスタート事業の際に実施していたボランティアによる読み聞かせを中止し、ブックスタートパックの配布のみの実施となっています。

家で読み聞かせ、又は読書を週１回以上行っている子どもの割合

区　　分	令和元年度	令和５年度
１歳６か月児	９３％	９０．４％
保育所、こども園、幼稚園	７２％	７３．５％

令和５年度高松市子どもの読書活動に関するアンケートより

ブックスタートパックの配布率

区　　分	令和元年度	令和４年度
４か月児相談	９５．１％	９４．３％

図書館要覧より

課　題

ブックスタートパックの配布率は、９０％以上と高い配布率となっています。家庭における読書環境を整備するためには、ブックスタート事業を継続し、乳児期から成長段階に合わせた働きかけをする必要があります。

イ　児童・生徒への取組

本が生涯にわたって自身に役立つものとの認識が高まるよう、「図書館を使った調べる学習コンクール[※4]」の開催や「子ども司書養成講座」などの事業を通して、普及・啓発活動に取り組みました。

また、中学生、高校生の読書活動を推進するため、中央図書館等に設置しているヤングアダルトコーナーの活用に努めたほか、市内の中学校及び関係課と連携して「中学生ビブリオバトル[※5]」を開催するなど、児童生徒の読書への関心を高める取組を推進しました。

家で読書を週１回以上行っている子どもの割合

区　　分	令和元年度	令和５年度
小学１年生～３年生	８０％	６６．３％
小学４年生～６年生	７３％	６９．０％
中学生	４７％	３２．３％
高校生	２４％	１５．７％

令和５年度高松市子どもの読書活動に関するアンケートより

１か月間で本を読んだ平均冊数

区　　分	平均冊数	１冊も読まなかった人
小学１年生～３年生	10.4 冊	6.0%
小学４年生～６年生	13.5 冊	3.0%
中学生	3.4 冊	35.4%
高校生	0.8 冊	65.6%

令和５年度高松市子どもの読書活動に関するアンケートより

課　題

小・中学生及び高校生が家で読書を週１回以上行っている割合は減少しているため、読書の動機づけの新たな展開が必要です。

また、全国的にも高校生の不読率が問題になっており、興味関心を引く図書に関する情報の提供や図書に出会える機会を創出する必要があります。

ウ　市立図書館の整備と資料の充実

子どもたちが読書の楽しみを知ることができるよう、幅広い資料・情報の収集を行い魅力的な書架づくりに努めました。

また、障がいのある子どもたちが利用しやすい資料を積極的に収集するとともに、障がいのある子ども等が利用しやすい設備や提供体制について整備を進めました。

児童用図書館蔵書冊数及び貸出冊数

区　　分	令和元年度	令和４年度
児童用図書館資料の整備・充実	３７万２千冊	３７万５千冊
図書館児童書貸出冊数	１１２万１千冊	９９万９千冊

図書館要覧より

障がい者支援図書年間貸出冊数

区　　分	令和元年度	令和４年度
りんごの棚※6		９１４冊

図書館要覧より

課　題

児童用図書館蔵書冊数は増えましたが、貸出冊数は減っています。利用者のニーズに応えるために、読んで楽しい本に加えて、調べものに役立つ図書等、子どもが興味・関心を持てる資料の収集が必要です。

エ　子どもの読書活動に関する普及・啓発

読書週間やこどもの読書週間を中心とした読書イベントの開催、「読書感想画」や「図書館を使った調べる学習コンクール」の開催など、読書に関する様々な事業や情報についての周知に努め、子どもの読書活動を推進しました。

子どもの読書に関する広報誌の発行、ホームページやインスタグラム等 SNS を利用した広報、対象年齢別のブックリストの配布など、様々な広報媒体を通じて子どもの読書活動に関する情報を広く発信しました。

課　題

子どもの読書活動を、より効果的に多くの人に広報するためには、ＳＮＳ等情報伝達の手段について工夫する必要があります。

オ　読書ボランティア等との連携と協働、活動支援

おはなし会や各種イベントの開催など、子どもの読書活動を活発化させるため、ボランティア養成講座や講演会、研修会などを継続して実施し、ボランティアのスキルアップをサポートしました。

また、市立図書館が中心となり、読書ボランティア団体のネットワーク化を図り、情報共有や交流を促進して、幅広く活動できるよう支援しました。

課　題

読書ボランティアは図書館のみならず、地域や社会福祉施設等で読み聞かせを行うなど、地域の読書活動を充実するために大きな役割を果たしています。ボランティアを支援し、ボランティアとの更なる連携が必要です。

カ　地域における読書活動の推進

市立図書館を利用していない、あるいは利用しにくい子どもや保護者等の読書活動を推進するため、コミュニティセンターに設置した図書館分室や移動図書館の利用促進に取り組みました。

課　題

子どもが読書に親しむ機会を提供するために、図書館分室や移動図書館に加えて、子育て支援施設も含めた関係各課の更なる連携を進める必要があります。

読書ボランティアによるおはなし会

(2)　学校等における読書活動

ア　保育所（園）・こども園・幼稚園

保育所（園）・こども園・幼稚園などでの出張おはなし会における年齢や発達に応じた絵本の読み聞かせなど、子どもが楽しくお話に触れる機会を通して絵本への興味や関心が広がるように、題材選び等の工夫を行いました。

また、絵本などの図書の充実により、子どもがいつでも絵本に触れることのできる環境の整備に努めました。

課　題

乳幼児期から絵本やお話の楽しさを味わい、豊かな感性を培い、興味・関心を広げたり、親子の愛着関係を深めたりするため、家庭において読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読む機会を増やしたりするよう働きかける必要があります。

イ　学校

子どもの知的活動を増進し、多種多様な興味・関心に応え、魅力的な図書資料を充実するため、学校図書館資料の計画的な整備に努めました。

また、児童生徒が現実社会の諸課題について多面的・多角的に考え、公正に判断する力を付けることができるように、全ての小・中学校に新聞２紙を配備しました。

また、司書教諭や学校図書館指導員と連携して、学校の実態に合った学習活動や読書活動の充実や環境の整備を進めました。

区　　分	令和元年度	令和４年度
定期的に全校一斉の読書活動を実施している学校数の割合	小学校　９６％ 中学校　１００％	小学校　９１．８％ 中学校　８３．３％
学校図書館指導員配置の充実	小学校　全校 中学校　全校	小学校　全校 中学校　全校
児童生徒一人当たりの学校図書館図書の年間貸出冊数	小学校　６０．４冊 中学校　１３．６冊	小学校　６４．５冊 中学校　１２．１冊

課　題

学校では、司書教諭や学校図書館指導員、ボランティア等の更なる連携により、よりよい学校図書館運営を行う必要があります。また、司書教諭や学校図書館指導員の経験等によって学校図書館の充実の差が見られるため、更なる研修の充実が必要です。

ウ　市立図書館との連携

学校図書館指導員の研修会に図書館司書が参加し情報共有を図るなど、市立図書館と学校及び学校図書館との連携を深めるとともに、調べる学習支援や読書ボランティアの育成支援等を推進しました。

また、市立図書館からの団体貸出の利用促進を図るとともに、サンクリスタル学習[※7]やこども未来館学習、図書館見学、職場体験の受入れなどにより、図書館への理解を深めるとともに利用の促進を図りました。

課　題

学校等への訪問、サンクリスタル学習を継続的、効果的に実施するためには、図書館職員に対してブックトーク[※8]等の研修を行う必要があります。

令和４年度の市立小・中学校の団体貸出の利用は４８校にとどまっています。団体貸出を利用していない学校への働きかけを行い、図書館資料の有効活用を進める必要があります。

３　第５次計画の総括と今後の方向性

第５次計画の取組として、ブックスタート事業による家庭への働きかけや、図書館での定例おはなし会の実施、学校と連携して取り組んだ「読書感想画」や「図書館を使った調べる学習コンクール」による読書の動機づけ等、家庭、地域、学校が一体となった取組を進めてきました。

しかしながら、小学校高学年や中学生、高校生の読書機会が少ないこと、社会の変化にあった多様な資料の充実、読書活動に関わる人材の育成、子どもの読書に関する関係各課や地域の連携等、課題も残りました。

これらの課題を解決するためには、地域の読書活動において中心的役割を果たす図書館の取組が重要になっています。

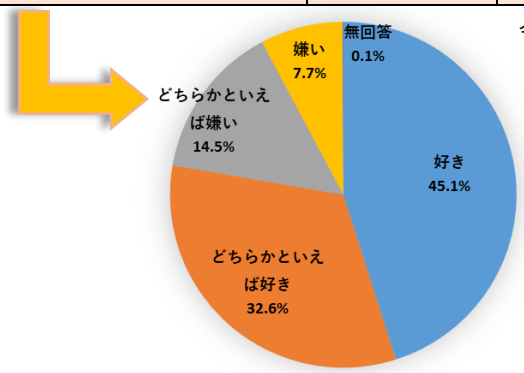
「高松市子どもの読書活動に関するアンケート調査」によると、「読書は好きですか」という質問に対して約２２％の子どもが「嫌い」「どちらかといえば嫌い」と回答しています。

読書が好きであることにより、自主的に本を読むことにつながり、読書をすることで今まで知らなかった世界を体験し、人生をより豊かに生きる力を得ることができます。

本計画では、すべての子どもに本との出会いの場を創出し、子どもの「読書が好き」を育むことを目標に取り組んでいきます。

あなたは本を読むこと（絵本の読み聞かせ）が好きですか

	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
１歳６か月児	54.8%	37.0%	6.8%	1.4%	0.0%
保育所、こども園、幼稚園	63.3%	30.9%	5.3%	0.5%	0.0%
小学１年生～３年生	43.2%	31.1%	17.1%	8.6%	0.0%
小学４年生～６年生	46.2%	34.3%	14.5%	5.0%	0.0%
中学生	31.9%	30.8%	25.4%	11.5%	0.4%
高校生	40.6%	37.5%	0.0%	21.9%	0.0%
全　体	45.1%	32.6%	14.5%	7.7%	0.1%



令和５年度高松市子どもの読書活動に関するアンケートより

※１歳６か月児、保育所、こども園、幼稚園、小学１～３年生は保護者が回答、小学４年生以上は本人が回答。

第３章 第６次計画の基本目標と方針

１　基本目標

本市では、国の「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」や県の「香川県教育基本計画」を踏まえ、本市の実情等を考慮し、次の目標を掲げます。

子どもと本との出会いの場を創出し

「読書が好き」を育む

本計画はおおむね１８歳以下の者を対象としていますが、小・中学生の時期を読書習慣の形成に重要な時期と位置づけ、「読書は好きですか」という質問に「好き」「どちらかといえば、好き」と回答した児童生徒の割合を計画数値目標とします。
また、計画数値目標を達成するために、施策数値目標を設け、進行管理を行います。

【数値目標】

読書が「好き」「どちらかといえば好き」と答えた割合

令和５年度	→	令和１０年度
７７．７％		８０．０％

２　基本方針

基本目標の実現に向けて、次の３項目を計画の基本方針とします。

【基本方針】

Ⅰ　すべての子どもに本との出会いを届ける

Ⅱ　子どもの読書の大切さを伝える

Ⅲ　子どもの読書活動を支える体制を整える

Ⅰ　すべての子どもに本との出会いを届ける

子どもが読書習慣を身に付けるためには、家庭、図書館、学校及び地域において、子どもたちの日常生活の中で読書への関心が高められる環境を整える必要があります。

また、子どもの成長段階に応じた読書体験の機会を充実させ、子どもと本との出会いの場を創出することが重要です。

そこで、家庭での読書活動を支援し、図書館では幅広い資料の収集や成長段階に合った事業を行うとともに、デジタル社会に対応した読書環境の整備を行います。

学校では読書を楽しみ、読書習慣が身に付くように子どもが読書に親しむ機会の提供に努めます。

また、図書館に来ることが困難な子どもや障がいのある子ども、日本語を母語としない子どもなど、一人ひとりの実情に応じた取組を行い、すべての子どもに本との出会いを届けます。

Ⅱ　子どもの読書の大切さを伝える

子どもの読書活動を推進するためには、周囲の大人が、子どもが読書することの意義や重要性について理解を深め、関心を高める必要があります。

そこで、「子ども読書まつり[※9]」や「おはなし会」など保護者等が集まる機会等を通じて、読書活動啓発リーフレットや推薦図書リストの配布をして、読書活動の意義や重要性について啓発します。

また、市立図書館や学校図書館等が機能を十分発揮できるよう、図書館職員や司書教諭等に研修を実施し、読書活動に関する人材の育成に努めます。

Ⅲ 子どもの読書活動を支える体制を整える

子どもの読書活動を推進するためには、市立図書館と関係各課や学校等が連携・協力し、子どもたちの読書活動を支える仕組みづくりを整えていくとともに、地域の民間団体や読み聞かせボランティア団体等をはじめ、子どもに関わる人たちを支援し、市全体での推進体制の充実に努めます。

子ども読書活動推進計画とＳＤＧｓとのかかわり

平成２７年（２０１５）９月に国連サミットにおいて「持続可能な開発のための２０３０アジェンダ」が採択されました。同アジェンダでは「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」が掲げられ、１７の目標が定められています。ＳＤＧｓの「誰一人取り残さない」とする基本理念に沿って、本市の子ども読書活動推進においてもこの視点を意識して各施策に取り組むことが求められます。

そのためには、高松市のすべての子どもに本を届けられるよう読書環境を整備し（目標４「質の高い教育をみんなに」）、また、いつでも読書に親しめるまちを目指すため（目標１１「住み続けられるまちづくりを」）、子どもの読書活動の関係各課、民間団体の連携（目標１７「パートナーシップで目標を達成しよう」）を進めていくことが大切です。

3　施策体系

【基本方針】
Ⅰ　すべての子どもに本との出会いを届ける
Ⅱ　子どもの読書の大切さを伝える
Ⅲ　子どもの読書活動を支える体制を整える

対象	具体的な施策内容		基本方針
家庭	1	家庭での読書環境づくりの支援（ブックスタート）	Ⅰ
	2	家庭へのお薦め図書リストの活用	Ⅱ
	3	読書に関する親子イベントの実施	Ⅱ
図書館	4	成長段階に応じたおはなし会の実施	Ⅰ
	5	図書館利用のきっかけとなる事業の実施	Ⅰ
	6	成長段階に応じたお薦め図書の紹介冊子の作成	Ⅰ
	7	中学生、高校生に対する利用促進	Ⅰ
	8	特集展示の実施	Ⅱ
	9	「こども読書週間」の事業	Ⅱ
	10	読み聞かせボランティアの育成	Ⅱ
	11	幅広い資料の収集	Ⅰ
	12	学校向け団体貸出用資料の充実	Ⅰ
	13	郷土に関する資料の充実	Ⅰ
	14	電子書籍サービスの充実	Ⅰ
	15	移動図書館の活用	Ⅰ
	16	図書館利用のバリアフリー化	Ⅰ
	17	日本語を母語としない子どもたちへの利用促進	Ⅰ
	18	外国語資料の収集と活用	Ⅰ
	19	特別支援学校等との連携	Ⅲ
	20	司書の育成	Ⅱ
	21	市立図書館職員の研修	Ⅱ
	22	学校等への団体貸出の整備	Ⅲ
	23	小学校との連携	Ⅲ
	24	コミュニティセンターや保育所等との連携	Ⅲ
学校等	25	保育教育士の研修	Ⅱ
	26	市立高等学校の読書活動の推進	Ⅰ
	27	小・中学生への読書活動の支援	Ⅲ
	28	学校図書館運営の整備・充実	Ⅲ
	29	学校向け電子図書館の活用	Ⅰ
	30	司書教諭や学校図書館指導員の資質向上	Ⅱ
	31	司書教諭や学校図書館担当教員と学校図書館指導員の連携	Ⅲ
地域等	32	地域ボランティアの支援	Ⅲ
	33	関係各課の連携	Ⅲ
	34	サンクリスタル高松３館による連携	Ⅲ

第４章 第６次計画の施策

１　家庭に対する取組

【取組の内容】

子どもの読書習慣は日常生活を通して形成されるものであるため、家庭において乳幼児期から読み聞かせをしたり、一緒に本を読んだりするなど、子どもが読書に親しむきっかけを作ることが重要です。

また、子どもにとって最も身近な存在である保護者等が読書の意義や重要性について理解し、読書の習慣化に積極的な役割を果たすことが求められます。

そこで、すべての赤ちゃんとその保護者等を対象にブックスタート事業を行ったり、市立図書館や市立小学校が推薦図書リストや読書に関するリーフレットを配布したりすることで、家庭における読書活動が進むよう、保護者等を支援します。

施策１　家庭での読書環境づくりの支援（ブックスタート）

市立図書館では、ブックスタート事業により、いつでも家庭で読み聞かせができる環境づくりを支援し、生涯に渡る読書活動のきっかけとします。

施策２　家庭へのお薦め図書リストの活用

市立図書館では、お薦め図書リストを活用し、「おはなし会」など読書に関する親子イベントの際に配布することで、親子で本を選ぶ楽しさを知る機会を提供します。

施策３　読書に関する親子イベントの実施

市立図書館では、「子ども読書まつり」など、読書に関する講座等の親子イベントを実施して、家族で読書の楽しさを共有する機会を提供します。

目標指標	令和４年度（実績）	令和１０年度（目標）
子ども読書まつり参加者数	２，０００人	２，１００人

子ども読書まつり

２　図書館における取組

（１）市立図書館施設を活用した取組

【取組の内容】

子どもにとって図書館とは、読みたい本を自由に選択し、読書の楽しみを知ることができる場所であり、保護者等にとっては子どもの読書について司書に相談できる場所です。

図書館は、子どもや保護者等を対象にしたおはなし会、講座、資料展示を行い、読み聞かせのボランティア団体を支援するなど、地域における子どもの読書活動に重要な役割を果たします。

そこで、市立図書館では中央図書館や夢みらい図書館を子どもの読書活動の拠点として活用し、子どもの成長段階に応じたおはなし会や「子ども司書養成講座」など様々な事業を実施し、子どもが読書を楽しむ機会の提供や保護者等に対して図書に関する情報提供を行うことで、図書館利用を促し、本に親しむきっかけとなるように努めます。

また、ボランティア活動を行うための機会の提供に努めます。

施策4　成長段階に応じたおはなし会の実施

子どもの成長段階に応じたおはなし会を実施し、途切れることのない本との出会いの機会を子どもに提供します。

施策５　図書館利用のきっかけとなる事業の実施

図書館に来館するきっかけとなるような事業を実施し、読書に親しみのない子どもが本に親しむ機会を提供します。

目標指標	令和５年度（実績）	令和１０年度（目標）
小・中学生の公立図書館利用率	小学生：50.2% 中学生：19.3%	小学生：60.0% 中学生：25.0%

※「高松市子どもの読書活動に関するアンケート調査」より「公立図書館をどの程度利用していますか」に対し「よく利用する」「ときどき利用する」と答えた割合

施策６　成長段階に応じたお薦め図書の紹介冊子の作成

成長段階に応じたお薦め図書の紹介冊子を定期的に作成し、子どもの読書への興味を広げます。

施策７　中学生、高校生に対する利用促進

利用機会の少ない中学生、高校生に向けて、ＳＮＳを活用した情報発信を行います。

また、「中学生ビブリオバトル」で中学生自身がお薦め本を紹介したり、自分たちで企画したおはなし会を実施するなど、自ら発信する機会を提供します。

目標指標	令和４年度（実績）	令和１０年度（目標）
中学生ビブリオバトル参加者数	９人	１０人

施策８　特集展示の実施

季節や行事をテーマにした特集展示を行い、子どもや保護者等に幅広く資料を紹介します。

施策９　「こども読書週間」の事業

「こども読書週間」関連事業として、おはなし会や特集展示を中心とした事業を市立図書館で実施します。

施策１０　読み聞かせボランティアの育成

読み聞かせボランティアを育成し、おはなし会の運営を行えるよう支援をします。

（再掲）施策１　家庭での読書環境づくりの支援（ブックスタート）

（再掲）施策２　家庭へのお薦め図書リストの活用

（再掲）施策３　読書に関する親子イベントの実施

（２）資料の充実

【取組の内容】

新刊書だけでなく世代を超えて読み継がれている基本図書[※10]や調べものに役立つ図書、読書が好きになるような図書等を収集します。

また、図書館に来ることが困難な子どもや障がいのある子ども、日本語を母語としない子どもを含めた、すべての子どもたちが読書を楽しめるような多様な資料を計画的に収集します。

施策１１　幅広い資料の収集

基本図書に加え、探究的な学習活動等に活用できる図書や、本を読むきっかけとなるような児童用図書館資料についても収集します。

目標指標	令和４年度（実績）	令和１０年度（目標）
児童用図書館資料の冊数	３７万５千冊	３８万冊

目標指標	令和４年度（実績）	令和１０年度（目標）
児童図書の貸出冊数	９９９，３８６冊	１，１２０，０００冊

施策１２　学校向け団体貸出用資料の充実

学校向けに授業や調べる学習で活用できる団体貸出用資料を充実させ、団体貸出の促進を図ります。

目標指標	令和４年度（実績）	令和１０年度（目標）
市立小・中学校の団体貸出利用数	４８校	全小・中学校

施策１３　郷土に関する資料の充実

子どもが利用できる郷土に関する資料を収集し、学校と連携しながら児童生徒の学習に活用していきます。

施策１４　電子書籍サービスの充実

障がいのある子どもが利用できる音声読み上げ機能付きのコンテンツや、図書館利用の少ない中高生の興味・関心を高めるコンテンツを充実させます。

また、社会のデジタル化やGIGAスクール構想の進展を踏まえ、市立小・中学校の児童生徒に対し配布された一人一台端末を活用し、学校の授業や調べる学習で活用できるコンテンツを充実させます。

目標指標	令和４年度（実績）	令和１０年度（目標）
電子書籍の児童図書点数	６０４点	８００点

（３）すべての子どもが図書館を利用するための取組

【取組の内容】

図書館利用に困難のある子どもに対して、移動図書館の更なる活用やアクセシブルな資料の提供、図書館利用の際のコミュニケーション手段の確保に努めます。

また、日本語を母語としない子どもたちに対して、利用案内等を多言語化し、利用を促進するとともに、外国語資料の収集、整備を進めます。

施策１５　移動図書館の活用

図書館では、市内８７か所のステーションに移動図書館車が巡回し、図書館に来館が困難な子どもに対し図書館サービスを提供しています。

引き続き移動書館を活用し、保育所（園）への出張読み聞かせなどにより、より多くの子どもの手に本を届けます。

施策１６　図書館利用のバリアフリー化

アクセシブルな資料[※11]の充実やバリアフリーおはなし会[※12]を実施し、図書館利用の際のバリアフリー化に取り組みます。

施策１７　日本語を母語としない子どもたちへの利用促進

ホームページなど利用案内を多言語化し、日本語を母国語としない子どもたちの利用を促進します。

施策１８　外国語資料の収集と活用

子ども向けの外国語資料を収集し、おはなし会や資料展示等に活用します。

施策１９　特別支援学校等との連携

香川県立視覚支援学校など特別支援学校等との連携を図り、必要とされる図書の充実を図ります。

（再掲）施策１４　電子書籍サービスの充実

（４）司書の充実

【取組の内容】

司書は、長期に渡って図書館運営を行う専門的職員として、選書や事業企画、レファレンス等を行います。そのため、継続的な取組が必要な子どもの読書活動の推進において重要な役割を担います。

そこで、司書等に対して計画的な研修を実施し、市立図書館職員全体の専門的な知識や技能の向上に努めます。

施策２０　司書の育成

司書の専門的知識を高め、幅広い資料の収集や成長段階に合わせた読書に興味・関心を持つような事業の実施、保護者等からの読書相談を行えるよう育成します。

施策２１　市立図書館職員の研修

司書が市立図書館職員向けに読み聞かせやブックトーク等の館内研修を実施し、職員全体の能力向上を図ります。

（５）学校やコミュニティセンター等との連携

【取組の内容】

学校やコミュニティセンター等との連携体制を強化し、専門的な技能のある図書館職員を派遣して、読み聞かせやブックトークを行います。また、団体貸出については、利用しやすい環境の整備に努めます。

施策２２　学校等への団体貸出の整備

学校の団体貸出について、申込方法の案内や具体的な活用事例の周知など、利用しやすい環境を整備します。

施策２３　小学校との連携

市内の一部の小学校では「小学生ビブリオバトル」など、読書の動機付けとなる事業を実施しており、専門的な技能のある図書館職員を派遣するなど、小学校と連携していきます。

施策２４　コミュニティセンターや保育所等との連携

コミュニティセンターに設置した図書館分室や移動図書館の資料の充実を図るほか、コミュニティセンターや保育所（園）やこども園、幼稚園と、おはなし会などの読書関連の事業について連携して行います。

（再掲）施策１９　特別支援学校等との連携

３　学校等における取組

（１）保育所（園）やこども園、幼稚園における取組

【取組の内容】

保育所（園）やこども園、幼稚園には、乳幼児期に読書の楽しさを知ることができるよう、絵本に親しむ活動を積極的に行うことが期待されます。また、保護者等に対して読み聞かせの意義を広く普及することが求められます。

そこで、読み聞かせを通して乳幼児が絵本や物語に親しむ機会を充実させるとともに、保護者等に対して読書活動への理解を促す働きかけを行います。

施策２５　保育教育士の研修

保育教育士の研修を充実させ、図書館職員と連携し、本の読み聞かせの技能向上をしていきます。

（再掲）施策２４　コミュニティセンターや保育所等との連携

（２）学校における取組

【取組の内容】

学校は、子どもが読書の習慣を身に付ける上で、大きな役割を担います。また、すべての子どもが自由に読書をし、読書の幅を広げていくことができるよう、適切な支援と環境の整備が求められます。

そこで、学校では、第６次学校図書館計画に基づき、「学校図書館図書標準」の達成を目指すとともに、自主的な読書活動を行う機会や様々な図書に触れる機会を確保する取組を行います。

施策２６　市立高等学校の読書活動の推進

市立図書館作成のリーフレット等の情報を活用し、高校生の豊かな人間性を育む読書活動の推進を図ります。

また、ＳＤＧｓの理解に資する蔵書を充実させ、生徒の探求的な活動を支援します。

保育所（園）・こども園・幼稚園でのおはなし会

施策２７　小・中学生への読書活動の支援

「図書館を使った調べる学習コンクール」や「中学生ビブリオバトル」を市立図書館と連携して進めていくことで、読書の楽しさを伝えていきます。

また、小学校によっては独自のビブリオバトルを開催するなど読書の動機付けとなる行事を展開していきます。

目標指標	令和５年度（実績）	令和１０年度（目標）
家で読書を週１回以上行っている小学１年生～３年生の割合	６６．３％	８０．０％
家で読書を週１回以上行っている小学４年生～６年生の割合	６９．０％	８０．０％
家で読書を週１回以上行っている中学生の割合	３２．３％	５０．０％

（再掲）施策２２　学校等への団体貸出の整備

（再掲）施策２３　小学校との連携

（3）学校図書館の整備・充実

【取組の内容】

学校図書館は、学校教育において欠くことのできない設備であり、学習活動の支援や授業内容を豊かにする「学習センター機能」、情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター機能」、読書活動や読書指導の場となるための「読書センター機能」という３つの機能・役割の場として活用されることが期待されています。

そこで、市立学校の学校図書館では、児童生徒の知的活動を増進し、様々な興味・関心にこたえる魅力的な資料の充実と、十分な量の資料規模の整備を進めていきます。

また、学校図書館指導員やボランティア等の協力によって、学校図書館の環境の整備や機能の充実を進めていきます。

図書館を使った調べる学習コンクール

施策２８　学校図書館運営の整備・充実

人の温もりが感じられる魅力的な学校図書館を目指し、司書教諭や学校図書館指導員、ボランティアが協力して蔵書整備や新聞などの資料の充実を図るなど、学校図書館運営を行います。

目標指標	令和５年度（実績）	令和１０年度（目標）
学校図書館をよく利用する小学１年生～３年生の割合	２５．７％	５０．０％
学校図書館をよく利用する小学４年生～６年生の割合	３１．８％	５０．０％
学校図書館をよく利用する中学生の割合	９．１％	２５．０％
学校図書館をよく利用する高校生の割合	２．８％	１０．０％

施策２９　学校向け電子図書館の活用

児童生徒の読書機会が確保できるよう、一人一台端末等のICT環境を利用し、学校向け電子図書館を活用していきます。

施策３０　司書教諭や学校図書館指導員の資質向上

司書教諭や学校図書館指導員の資質向上に向けた方策を検討し、研修会を充実していきます。

施策３１　司書教諭や学校図書館担当教員と学校図書館指導員の連携

司書教諭や学校図書館担当教員と学校図書館指導員が連携し、全教職員が協力して学校図書館機能を充実していきます。

４　地域に対する取組

（１）民間団体等に対する支援

【取組の内容】

民間団体は、地域や学校で読み聞かせを行うなど、子どもの自主的な読書活動を推進することに大きく寄与する存在です。

そこで、市内ボランティア団体等の活動を市立図書館が支援し、地域における子どもの読書活動を推進します。

施策３２　地域ボランティアの支援

地域で活動するボランティア等に対して、市立図書館が読み聞かせに必要な知識や読書活動に関する情報を提供するとともに、ボランティア団体のネットワーク化を図り、情報共有や交流を支援します。

目標指標	令和４年度（実績）	令和１０年度（目標）
市立図書館に団体登録している地域のボランティア団体数	２１団体	２５団体

（２）子どもの読書活動の関係各課における連携・協力

【取組の内容】

歴史資料館や菊池寛記念館と連携し、サンクリスタル学習や子どもの読書に関する事業を行っています。

また、コミュニティセンターにおいても、児童の情操を豊かにすることを目的として図書館分室を設置し、児童が気軽に読書に親しむことができる環境を整備しています。

これらの子どもの読書活動の関係各課が連携、協力して、子どもがいつでも本を手に取ることができる環境を整えます。

施策３３　関係各課の連携

関係各課の連携・協力を進め、市全体での推進体制の充実に努めます。

施策３４　サンクリスタル高松3館による連携

サンクリスタル高松にある、高松市中央図書館、歴史資料館、菊池寛記念館の3館により、サンクリスタル学習や子どもの読書に関する企画展や事業について、連携・協力します。

目標指標	令和４年度（実績）	令和１０年度（目標）
サンクリスタル学習参加学校数	３１校	４０校

（再掲）施策１５　移動図書館の活用

（再掲）施策２４　コミュニティセンターや保育所等との連携

用　語　説　明

番号	用語	内容
1	ICT	Information and Communication Technology の略。 情報（Information）や通信（Communication）に関する技術の総称。
2	ヤングアダルト	Young Adult。12歳～19歳くらいの「大人になりつつある人」のこと。
3	ブックスタート事業	絵本を手渡すことで読書への動機付けを図るとともに、絵本を開く楽しい体験を通して、赤ちゃんと保護者等がゆっくり向き合い、豊かで温かい時間を持つ機会を作っていただく事業。 ４か月児相談に合わせて、絵本と年齢ごとのお勧め本を記載したブックリストなどを同封したブックスタートパックの配布とボランティアによる絵本の読み聞かせを実施。
4	図書館を使った調べる学習コンクール	自らの疑問や課題に対し、学校図書館や公共図書館で調べたことから自らの考えを深め、その学ぶ過程を作品として示すことで図書館利用のあり方を求めることを目的とする。 コンクールを通じて、児童生徒自らが考え、判断し、表現する力を育むと共に、図書館での調べ方を体得し、有効に活用する力を養う事業。
5	中学生ビブリオバトル	読書離れが進む傾向にある中学生の読書活動を推進するため、参加者がおすすめの１冊を持ち寄り、本の魅力を紹介し合う、知的書評合戦。
6	りんごの棚	「本が読めない、読みにくいという特別なニーズのある子ども達のために、読書の喜びを与えたい。」という願いからスウェーデンの図書館で生まれた。りんごの棚には、大活字本、点字の本、LLブックなどを配置するほか、発達障がいについてなど障がいを理解するための本も含まれる。
7	サンクリスタル学習	サンクリスタル高松内の中央図書館、菊池寛記念館、歴史資料館を活用して、高松市内の小学校の図書館学習、文学学習、社会科郷土学習に資する事業。
8	ブックトーク	あるテーマに沿って選んだ複数冊の本について参加者の興味・関心がもてるように紹介し、読書意欲を喚起する手法のこと。
9	子ども読書まつり	本市図書館で開催する、子どもの読書活動を推進するため、ボランティア、学校、企業などと連携し、子どもたちが楽しみながら本と出会う機会を提供する事業。
１０	基本図書	図書館で標準的に所蔵している資料。質の高い絵本、児童文学など、世代を超えて読み継がれている児童書。
１１	アクセシブルな資料	視覚障がいや発達障がい、肢体不自由等により読書が困難であっても、利用しやすい資料。拡大文字資料や点字付き絵本、布絵本、ＬＬブック、マルチメディアデイジー等がある。
１２	バリアフリーおはなし会	絵本や紙芝居などの読み聞かせに合わせて手話を行い、全ての人が楽しめるおはなし会。

高松市子どもの読書活動に関するアンケート調査結果

1　調査目的

第６次高松市子ども読書活動推進計画の策定の参考とするため。

2　調査対象及び調査方法

対　象	回答人数	備　考
１歳６か月児	７３人	１歳６か月児健診
保育所、こども園、幼稚園	１８８人	市内保育所、こども園、幼稚園６園
小学１年生～３年生	３１５人	市内小学校３校
小学４年生～６年生	３０３人	市内小学校３校
中学生	２６０人	市内中学校３校
高校生	９６人	市内高等学校１校
合　計	１，２３５人	

※１歳６か月児、保育所、こども園、幼稚園、小学１～３年生は保護者が回答、小学４年生以上は本人が回答。

3　調査時期

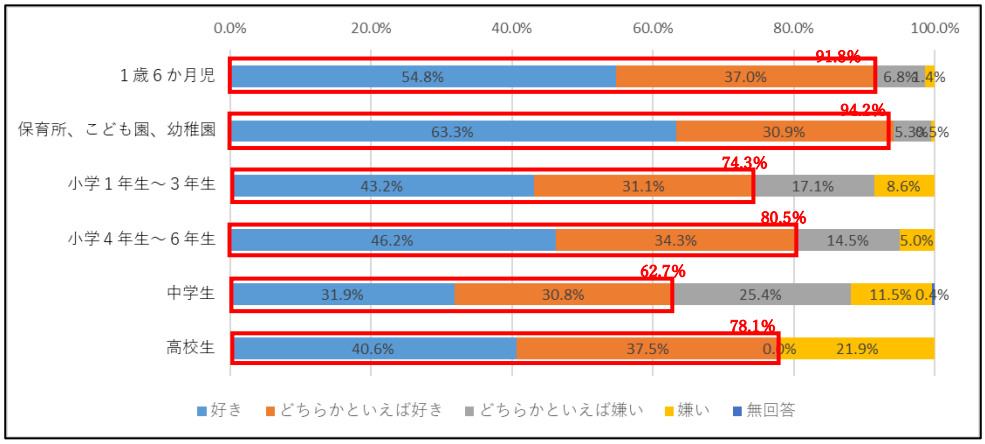
令和５年１０月２日（月）～１０月２７日（金）

4　調査結果

次ページ以降のとおり。

問１　あなたは本を読むこと（絵本の読み聞かせ）が好きですか。　（人）

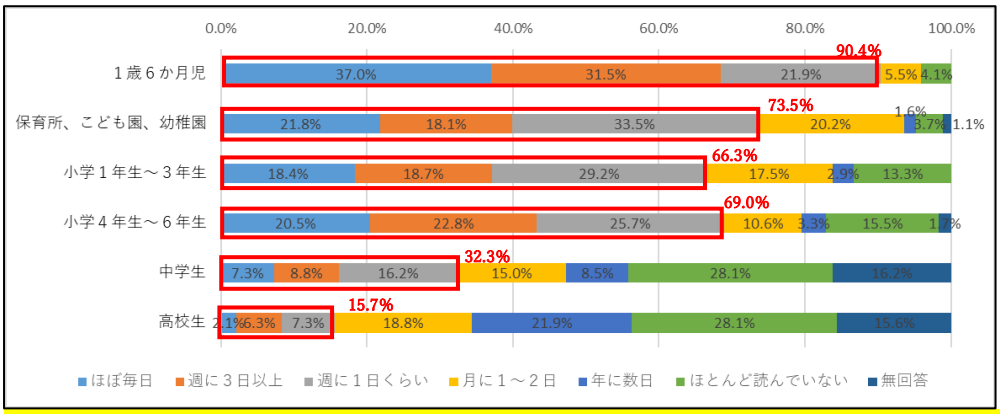
	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い	無回答
１歳６か月児	40	27	5	1	0
保育所、こども園、幼稚園	119	58	10	1	0
小学１年生～３年生	136	98	54	27	0
小学４年生～６年生	140	104	44	15	0
中学生	83	80	66	30	1
高校生	39	36	0	21	0



本を読むことが好き、どちらかといえば好きの割合が前回の調査時より低下しており、特に中学生は 62.7%（前回 73.3%）と大幅に低下している。

問２　家でどのくらいの頻度で本を読んでいますか（読み聞かせをしていますか）。　（人）

	ほぼ毎日	週に３日以上	週に１日くらい	月に１～２日	年に数日	ほとんど読んでいない	無回答
１歳６か月児	27	23	16	4	0	3	0
保育所、こども園、幼稚園	41	34	63	38	3	7	2
小学１年生～３年生	58	59	92	55	9	42	0
小学４年生～６年生	62	69	78	32	10	47	5
中学生	19	23	42	39	22	73	42
高校生	2	6	7	18	21	27	15



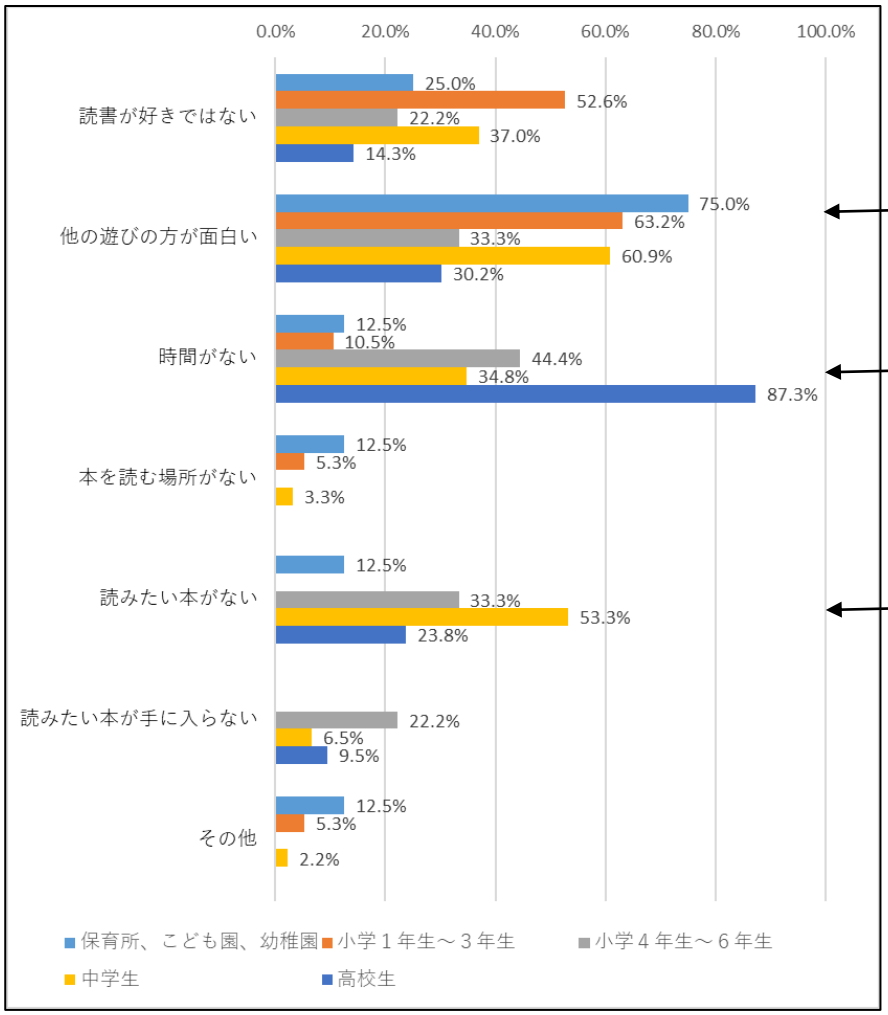
家で週に１日以上本を読む割合が小学生、中学生、高校生で前回調査時より低下している。
（前回調査：小学１年生～3 年生 80.5%、小学４年生～6 年生 73.3%、中学生 47.2%、高校生 23.8%）

問３　あなたは、今日までの１か月間に、本を何冊読みましたか。

	平均冊数	１冊も読まなかった人	
		人数	割合（不読率）
保育所、こども園、幼稚園	10.0 冊	８人	4.3%
小学１年生～３年生	10.4 冊	１９人	6.0%
小学４年生～６年生	13.5 冊	９人	3.0%
中学生	3.4 冊	９２人	35.4%
高校生	0.8 冊	６３人	65.6%

問４　１冊も読まなかった理由。（複数回答可）　（人）

	読書が好きではない	他の遊びの方が面白い	時間がない	本を読む場所がない	読みたい本がない	読みたい本が手に入らない	その他
保育所、こども園、幼稚園	2	6	1	1	1	0	1
小学１年生～３年生	10	12	2	1	0	0	1
小学４年生～６年生	2	3	4	0	3	2	0
中学生	34	56	32	3	49	6	2
高校生	9	19	55	0	15	6	0



すべての年齢で「他の遊びの方が面白い」が多い

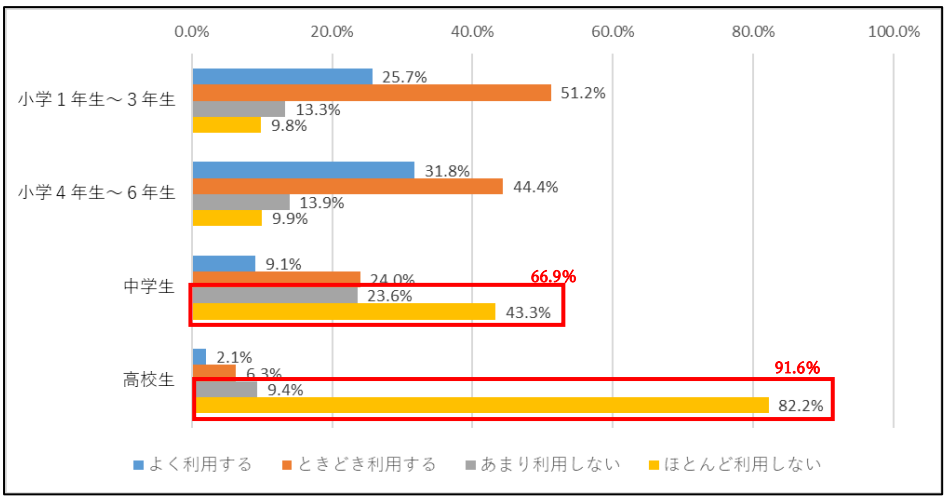
小学４年生～６年生以上で「時間がない」が多い

中学生では、読みたい本に出会えていない

１か月間の平均読書冊数では、高校生は1か月に本を読む冊数が1冊以下となっている。
1冊も読まなかった理由として中学生では「他の遊びのほうがおもしろい」高校生では「時間がない」が多くなっている。

問５　学校の図書館をどのくらい利用していますか。　（人）

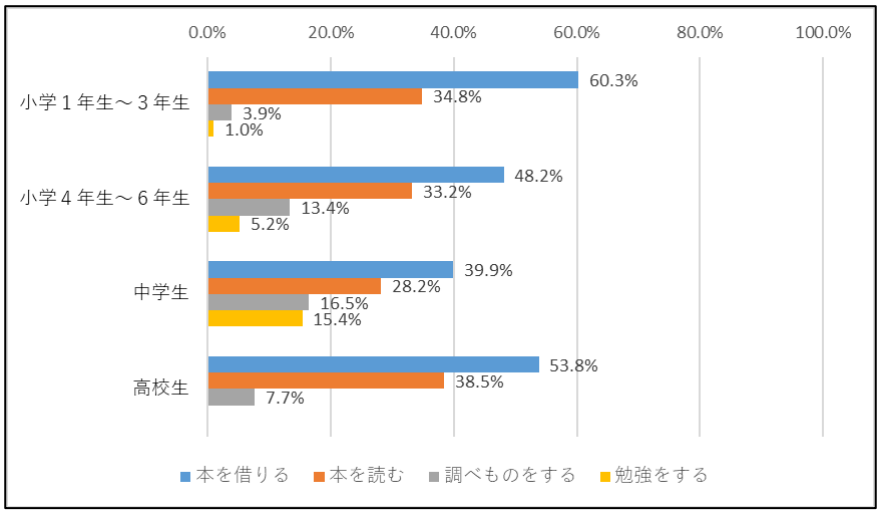
	よく利用する	ときどき利用する	あまり利用しない	ほとんど利用しない	貸出図書がない	無回答
保育所、こども園、幼稚園	52	69	11	46	10	0
小学１年生～３年生	81	161	42	31	—	0
小学４年生～６年生	96	134	42	30	—	1
中学生	23	61	60	110	—	6
高校生	2	6	9	79	—	0



学校図書館の利用について、中学生は「あまり利用しない」「ほとんど利用しない」が 66.9%、高校生では 91.6%を占めた。

問６　学校図書館をどんな目的で利用していますか。（複数回答可）　（人）

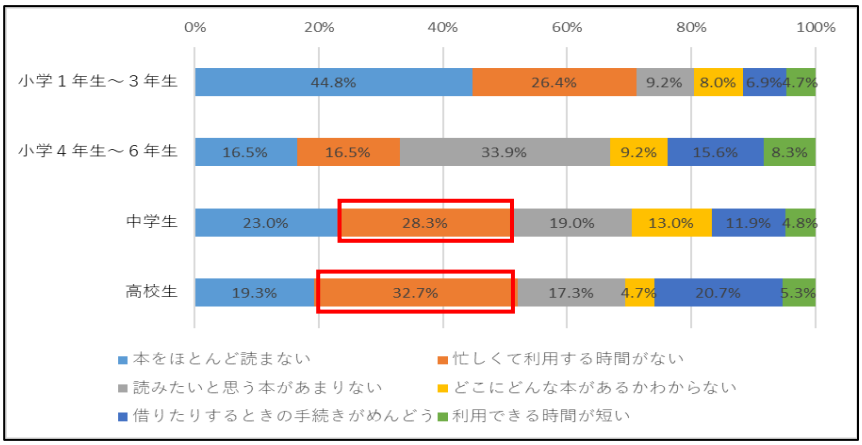
	本を借りる	本を読む	調べものをする	勉強をする
小学１年生～３年生	199	115	13	3
小学４年生～６年生	184	127	51	20
中学生	150	106	62	58
高校生	7	5	1	0



学校図書館の利用目的については、すべての年代で「本を借りる」「本を読む」が大半を占めている。

問７　学校図書館をあまり利用しない理由は。（複数回答可）　（人）

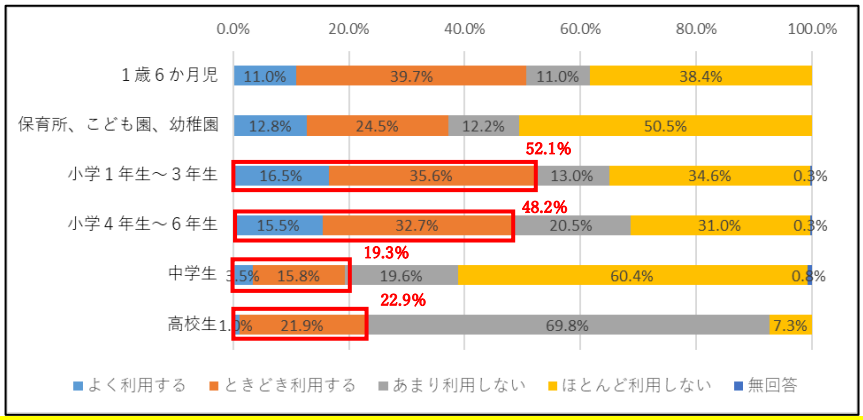
	本をほとんど読まない	忙しくて利用する時間がない	読みたいと思う本があまりない	どこにどんな本があるかわからない	借りたりするときの手続きがめんどう	利用できる時間が短い
小学１年生～３年生	39	23	8	7	6	4
小学４年生～６年生	18	18	37	10	17	9
中学生	87	107	72	49	45	18
高校生	29	49	26	7	31	8



学校図書館をあまり利用しない理由としては、中学生、高校生では「忙しくて利用する時間がない」が約 30%を占めている。

問８　公立図書館をどの程度利用していますか。　（人）

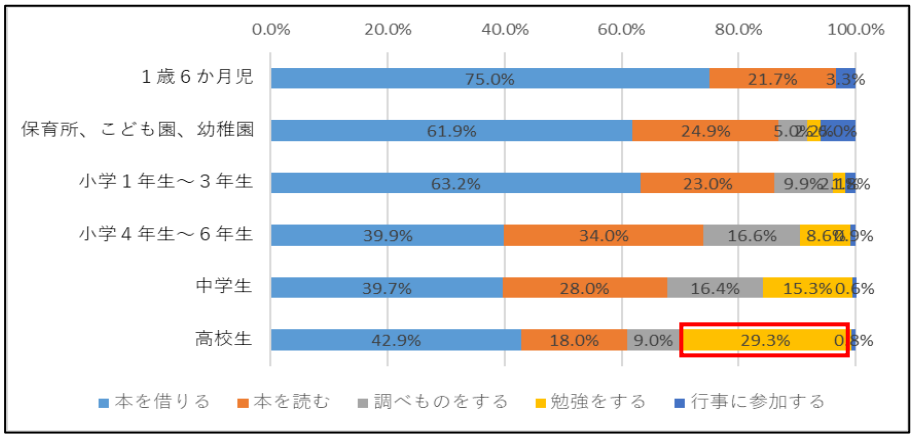
	よく利用する	ときどき利用する	あまり利用しない	ほとんど利用しない	無回答
１歳６か月児	8	29	8	28	0
保育所、こども園、幼稚園	24	46	23	95	0
小学１年生～３年生	52	112	41	109	1
小学４年生～６年生	47	99	62	94	1
中学生	9	41	51	157	2
高校生	1	21	67	7	0



公立図書館の利用について小学生は約 50%が「よく利用する」「ときどき利用する」となっているが、中学生は 19.3%、高校生では 22.9%と子どもの年齢が上昇すると公立図書館の利用が減少している。

問９　公立図書館をどのような目的で利用していますか。（複数回答可）　（人）

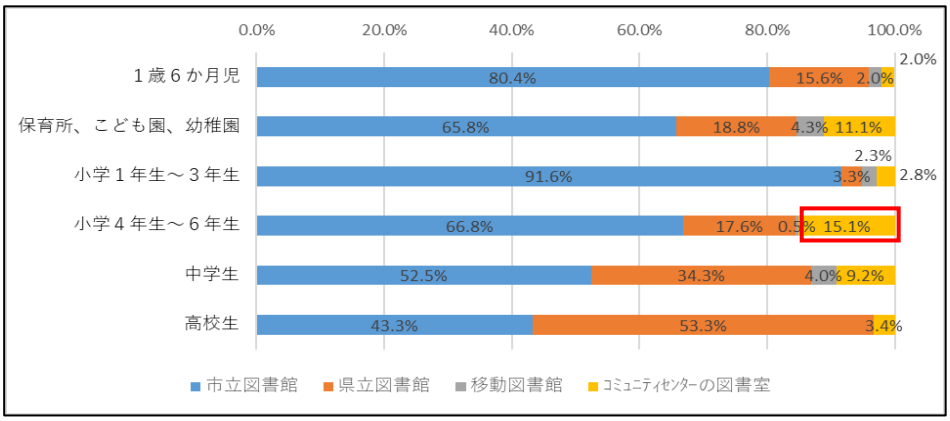
	本を借りる	本を読む	調べものをする	勉強をする	行事に参加する
１歳６か月児	45	13	—	—	2
保育所、こども園、幼稚園	112	45	9	4	11
小学１年生～３年生	242	88	38	8	7
小学４年生～６年生	190	162	79	41	4
中学生	150	106	62	58	2
高校生	57	24	12	39	1



公立図書館の利用目的については、すべての年代で「本を借りる」「本を読む」が大半を占めているが、高校生では「勉強をする」も利用目的のひとつになっている。

問 10　よく利用している図書館は。（複数回答可）　（人）

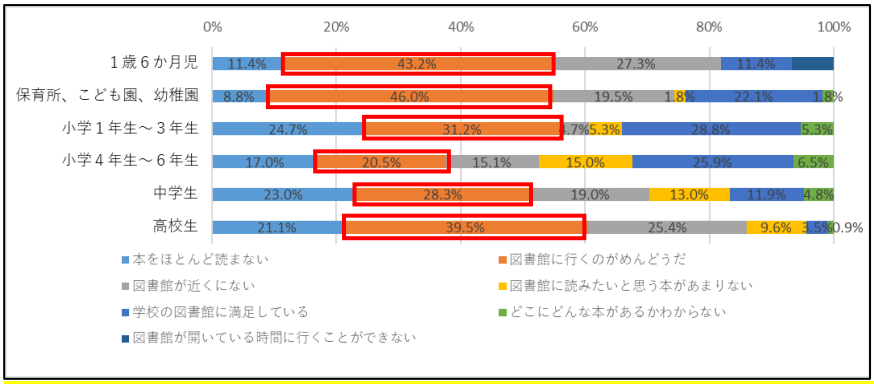
	市立図書館	県立図書館	移動図書館	ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰの図書室
１歳６か月児	41	8	1	1
保育所、こども園、幼稚園	77	22	5	13
小学１年生～３年生	197	7	5	6
小学４年生～６年生	129	34	1	29
中学生	52	34	4	9
高校生	13	16	0	1



よく利用している図書館としては、中学生以下では市立図書館の利用が多くなっている。
小学4年生～6年生ではコミュニティセンターの図書室の利用も一定数みられる。

問 11 公立図書館をあまり利用しない理由は。（複数回答可）　（人）

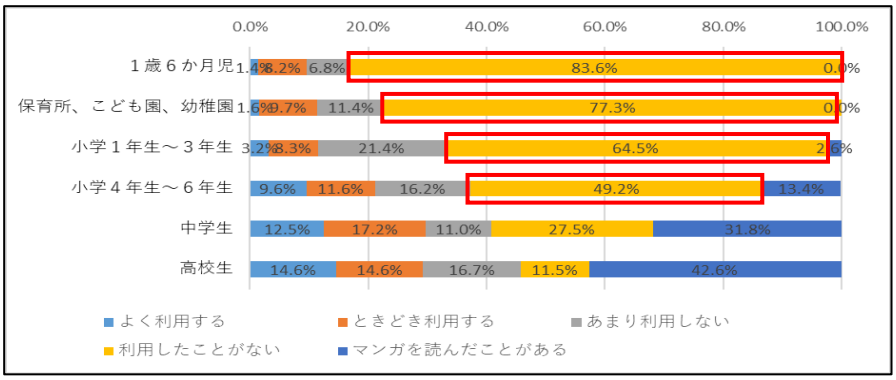
	本をほとんど読まない	図書館に行くのがめんどうだ	図書館が近くにない	図書館に読みたいと思う本があまりない	学校の図書館に満足している	どこにどんな本があるかわからない	図書館が開いている時間に行くことができない
１歳６か月児	5	19	12	—	5	—	3
保育所、こども園、幼稚園	10	52	22	2	25	2	0
小学１年生～３年生	42	53	8	9	49	9	0
小学４年生～６年生	44	53	39	39	67	17	0
中学生	87	107	72	49	45	18	0
高校生	24	45	29	11	4	1	0



公立図書館をあまり利用しない理由としては、すべての年代で「図書館に行くのがめんどうだ」が多くなっている。

問 12　電子書籍を利用したことはありますか。　（人）

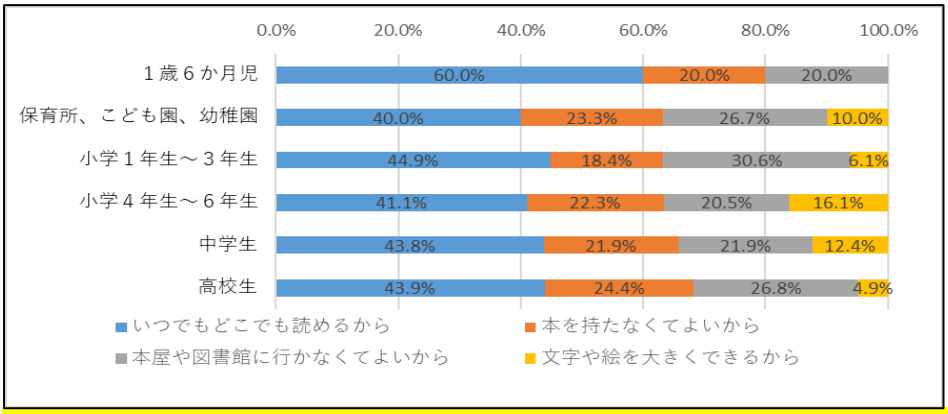
	よく利用する	ときどき利用する	あまり利用しない	利用したことがない	マンガを読んだことがある
１歳６か月児	1	6	5	61	—
保育所、こども園、幼稚園	3	18	21	143	—
小学１年生～３年生	10	26	67	202	8
小学４年生～６年生	29	35	49	149	41
中学生	32	44	28	70	81
高校生	14	14	16	11	41



電子書籍の利用については小学生以下では「利用したことがない」が最も多くなっている。

問 13　よく利用する、ときどき利用するを選んだ人はその理由を選んでください。（複数回答可）　　（人）

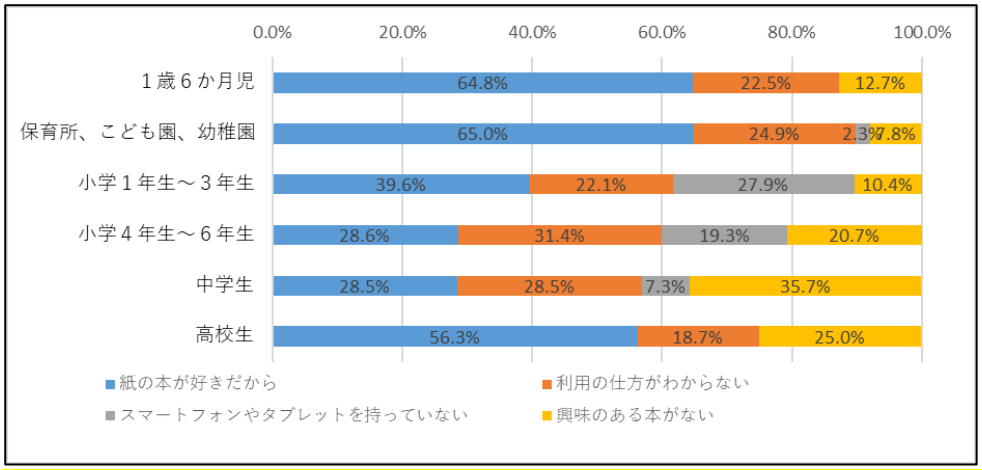
	いつでもどこでも読めるから	本を持たなくてよいから	本屋や図書館に行かなくてよいから	文字や絵を大きくできるから
１歳６か月児	6	2	2	0
保育所、こども園、幼稚園	12	7	8	3
小学１年生～３年生	22	9	15	3
小学４年生～６年生	46	25	23	18
中学生	64	32	32	18
高校生	18	10	11	2



電子書籍を利用する理由についてはすべての年代で「いつでもどこでも読めるから」が多くなっている。

問 14　あまり利用しない、利用したことがないを選んだ人はその理由を選んでください。（複数回答可）　（人）

	紙の本が好きだから	利用の仕方がわからない	スマートフォンやタブレットを持っていない	興味のある本がない
１歳６か月児	46	16	0	9
保育所、こども園、幼稚園	115	44	4	14
小学１年生～３年生	118	66	83	31
小学４年生～６年生	80	88	54	58
中学生	39	39	10	49
高校生	18	6	0	8



電子書籍を利用しない理由については「紙の本が好きだから」という理由が多くなっているが、「利用の仕方がわからない」という理由も多い。

第６次高松市子ども読書活動推進計画

発行年月　令和６年３月
発　　行　高松市教育委員会
問合せ先　高松市中央図書館
〒760-0014
高松市昭和町一丁目２番２０号
サンクリスタル高松内
Tel　087-861-4501
Fax　087-837-9114
Ｅ　ﾒ－ﾙ　library@city.takamatsu.lg.jp

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　https://library.city.takamatsu.kagawa.jp/

（表紙絵・カット　高松市中央図書館司書　中村　文音）